

地球で1番美しい散歩道を欲張って2コース  
ニュージーランド南島ミルフォード  
ドトラックとケプラートラック

はじめに

ガイドツアー4泊5日+インディペンデントツアー2泊3日+前後中間5日=13日間の長い旅程でした。途中体調不良のメンバーも出ましたが、何とか無事スケジュールを消化でき、予定した山行行程を歩きました。

これは、メンバーの皆さんのチームワークの結果です。参加の皆さんにお礼申しあげます。ありがとうございました。

さらに、この計画立案と実施にはメンバーの石原勝正さんに格別のお力を頂きました。

石原さんには、今回の後半部分のインディペンデントツアー（現地ツアー会社やガイドに依存しないで、自分達で企画し実施したツアー）の、インターネットやその他資料での調査と実際の予約、クレジットカードによる支払、また、現地での予約確認、予約以外の現地手配、ホテルチェックイン・アウト、精算、山岳情報の収集とヒアリングなど全体と細部にわたり精緻にして完璧など手配をしていただきました。現地の関係者との交渉や問合せに、折り目正しいキングスイングリッシュによる会話で対応していただき、私たちの旅程恙（つつが）なきを凶ってくださいました。

そのご努力と、お力に深甚なる感謝と敬意を表させて頂きます。ありがとうございました。

山行報告の冒頭に敢えてお礼述べさせていただきます。

実施日	2013年12月12日(木)～24日(火)
天候	曇、晴、雨、強風
リーダー	若村 勝昭
参加者	若村貴世子、若村勝昭、石附智江、中村友子、石原勝正、関塚七海 計6名
費用	航空運賃 167,000円、ミルフォードガイドツアー 165,000円、ホテル・バス・タクシー・食事等 約80,000円（いずれも概算）
タイム	12/12 成田(18:25)～ 12/13 オークランド～クィーンズタウン(泊) 12/14 ミルフォードトラック1 クィーンズタウン～テ・アナウ～グレートハウスロッジ(泊) 12/15 ミルフォードトラック2 グレートハウスロッジ～ホンホローナ・ロッジ(泊) 12/16 ミルフォードトラック3 ホンホローナ・ロッジ～マッキンノン峠～クィンティン・ロッジ(泊) 12/17 ミルフォードトラック4 クィンティン・ロッジ～サントフライポイント～マイターピーク・ロッジ(泊) 12/18 ミルフォードトラック5 マイターピーク・ロッジ～ミルフォード・サウト～クィーンズタウン(泊) 12/19 クィーンズタウン(☒)～テ・アナウ(泊) インディペンデントツアーに必要な食料品等の買い物、地図、パンフレット、気象情報、トラックコンディションのチェック等 12/20 ケプラートラック1 ケプラートラック・カーパーク～ブロード・ベイ～ラクスマア・ハット(泊) 12/21 ケプラートラック2 ラクスマア・ハット～アイリスバース・ハット(泊) 12/22 アイリスバース・ハット～モツラウ・ハット～レインボアー・リーチ(シャトル☒)～テ・アナウ(泊) 12/23 テ・アナウ(☒)～クィーンズタウン(✈)～オークランド(泊) 12/24 オークランド(✈)～成田(16:55)

日程#3 12月14日(金) 曇り・小雨

ミルフォード・トラック 1日目

クイーンズタウンより長距離専用バスでテ・アナウに向け出発

程なく川面が、青や緑に時には黒っぽく変わるゆったりした流れを車窓越しに見ながらバスは走る。

川から離れるとどこまでも続くかと思われる広大な牧草地におびただしい数の羊や牛、鹿が草を食む姿が見られる。

丘を覆うかのように咲く黄色のブルーム(エニシダ)、色とりどりのルピナス、ニュージーランド特産のマヌカハニーのマヌカの木も白い花を一杯つけている。

テ・アナウに到着後オフィスで当日の説明を受け、ランチを済ませ休憩後、再びバスで30分ほどで船着場に着く。1.5時間のクルーズでグレートワフ着。

初日のロッジ到着後、ガイドが付いて散策に出る。ニュージーランドの植物は殆どが固有種であるとの説明を聞き珍しい植物を見ながら1.5時間程でロッジに戻る。

シャワー、夕食の後、明日のコースのスライドを見ながら説明を聞き各自の部屋に。

(記・関塚 七海)

日程#4 12月15日(土) 終日雨

ミルフォード・トラック 2日目

グレードハウス~ポンポローナロッジ 16キロ 徒歩5h~7h

今日から本格的に5日目のロッジまで53キロを歩かないと途中は降りる手段はないのだ。へりを頼むしか…まあ大丈夫か？



朝ロ  
ッジ  
初  
め  
て  
ラ  
ン  
チ  
を  
各  
々  
作  
り  
(カ  
ナ  
ダ  
ト  
レ  
キ  
を

思い出す)、それから朝食を食べ 雨の中 各国39名とスタッフで記念写真を撮る。ハイポーズ。私達こぶし会もいざ 6名で出発。

2日目のコースはでクリント川に沿っての路は殆ど平坦で整備もされ快適で時には梓川沿いを歩いているような錯覚でした。その後大規模な地滑り地帯も慎重に。

原生林歩き、やっとランチ小屋です。ランチのシェルターの小屋では美人のスタッフと日本の男性(もちろんイケメン山ボーイ)と暖かい飲み物が待っています。

午後は林を抜け、平坦地で万年雪に優美な山々に豪快に流れ落ちる滝の数々を楽しみました。最後の長い登りでやっとロッジが。

15時半に今日のロッジ、ポンポローナに。快適なロッジライフをたのしむぞ・・ずぶ濡れでまずはシャワーに そしてビール!

驚いたことに昔ながらの湯たんぽ(ゴム製)が部屋に有り今回助かりました。(記・若村 貴世子)

日程#5 12月16日(月) 朝晴れ後時々雨・曇り

ミルフォード・トラック 3日目

・メイン行程: ポンポローナ・ロッジ~マッキンノン・バス(峠)~クインティン・ロッジ

サイドウオーク: 世界第5位の落差を誇るザ・ランド・フォール(滝)の見学

・行程: 15km & 7時間、サイドウオーク: 往復90分

野鳥のケアー(悪戯好きのオームの一種)の鳴き声で5時50分に起床、小屋のテラスに出ると3~4羽デッキに群れている。昨晚、小屋の入り口に置いておいた若村リーダーの雨傘を盗んだ悪戯オームの仲間だ。

前日のガイドの天気予報は“雨”で、強風が加わると厳しい行程になるというブリーフィングがあったので心配していたが峡谷の上に青空が広がっていたので、一安心。

今日はミルフォードトラックのハイライトとなるマッキンノン峠越え(標高差800mの登りと1,000mの下り)で期待が高まる。6時50分に朝食、ランチのサンドイッチを準備し他の3人にやや遅れて7時45分にロッジ出発。

すぐに5人に追いつき列を作って1時間ほど森を歩き雪崩の痕の残ったガレ沢を渡る。その後、低木地帯の整備された道になったため各自のペースで歩くことにする。

道端には白や黄色のディジーのような花、日本の桜の花に似た白い花、小さな苔の花、灌木の先端に咲く花などのお花畑が出現し、大きなシダや緑の苔も美しい。道は次第にゆっくりとした上り坂になり出発から1時間30分ほどで、ミンタロー・ハット(ガイドなしのウォーカーが宿泊する山小屋)に立ち寄り15分の小休憩。

小屋を出発して更に森の中をゆっくりとした上りが続く。しばらく歩くとマッキンノン峠への11回のジグザグ道の登りが開始する。



森を抜けて岩場のタソック(ブッシュ)地帯に入ると、峠に向かう雄大なカール(氷河で削られた溪谷)の展望が開け、深く切り込んだ岩壁のU字谷と垂直に下り落ちる無数の滝や

雪溪などの日本では見られない絶景が素晴らしい。ただし、残念ながらU字谷の頂上の方はガスっていてよく見えない。

道端の岩場のところどころに白い小さなお椀のような花卉のかわいい花が咲いており、これがマウントクック・リリーであるということを後でガイドから聞くことができた。マウントクック・リリーの開花は11月ですでに最

盛期を過ぎているとのことであった。

ジグザグ道を1時間ほど登ると峠のマッキンノン記念碑に到着し、記念碑の傍で若い女性のガイドから暖かいドリンク(ホットココア)をもらい、後続の3人が到着するまで約30分の休憩。記念碑の近くには野鳥のケアーが3羽ほど群れて、ウォーカーのランチ袋やデポ中のザックを開けようと狙っているの油断できない。

その後、雨が降り始めるとともにガスが発生し気温が下がってきたため、峠から尾根筋に進みランチの場所と定められているパス・ハットへ向かう。パス・ハットには15分ほどで到着し、暖かいホットコーヒーをいただき、45分ほどのランチ休憩をとって後続の5人と合流する。

風雨も弱まってきたので、12時半頃にパス・ハットを出発し今夜の宿泊予定であるクインティン・ロッジまで約2時間半、6キロの距離で標高差900mほど一気に下らなければならない。ここからの下りはトラックの最大の難所といわれていたので岩と瓦礫地帯やブッシュ地帯の道を慎重に下る。日本の北アルプスと比較すると整備された登山道で歩くのはさほど困難ではない。

道端には開花期を過ぎたマウントクック・リリーやマウンティン・ディジーの白い花が咲いている。その後高山植物にさよならを告げ、氷河が運んできたガレ沢に架かるモレーン・グレイク(橋)を渡る。ここから、深い森と急峻な溪谷と美しい苔に覆われた氷河から流れ落ちるマーガレット・ホールズ(数々の滝の絶景ポイント)を急坂に設置された木製の階段や滝の見物用テラスを通過して一気に半時ほど下る。更に1時間ほど歩き14時55分に待望のクインティン・ロッジに到着した。

ロッジ到着後、すぐに往復1時間半(片道45分)で世界第5位のサザラ

ンド滝（落差550m）のサイドウォークへ向かう。シダと苔に覆われた森林を30分ほど進み、滝を遠望できる吊橋に到着し滝をバックに写真を撮る。次第に滝に近づくとゴゴと轟音を立てるサザーランド滝が目の前に現れる。雨具を着て滝下の岩上テラスへ出るも滝から叩きつけられる轟音と暴風雨のような飛沫が吹き寄せられ、カメラも水浸しになってしまい、雨具を着ていても鳴り響く轟音と吹き寄せる風雨による寒さで2分と立ってられない。早々と帰路に向かいサイドウォークを終了し、クインティン・ロッジに戻る。

夕食前はホテルのようなロッジのラウンジで、現地のローカルビールのスペイツ（Speight's:英国のエール風味）を楽しむ。

午後6時50分から夕食、翌日のブリーフィング(日本人ガイドによる日本語の説明)の後、9時45分にベッドに入り就寝。（記・石原 勝正）

日程#6 12月17日(火) 晴  
ミルフォード・トラック 4日目  
クインティン・ロッジ～サンドフライ・ポイント～マイタピーク・ロッジ

3泊のロッジ生活を終え3回目のランチ作りも手慣れた。食材の中に今までになかった白米(長粒米)が有りおにぎりを作ってみた。中身はマヨネーズに醤油をたらしサランラップでポロポロしない様にギュッと包んで出来上がり。それに加えいつものサンドウィッチ、21kmの長丁場には十分なほどのクッキー、果物、等(後のケプラートラックで大活用)。

嬉しいことに今日は朝から青空が見える。

AM7時30分昨日渡ったハット近くの吊り橋を渡った所から新たな本日の行程、サンドフライ・ポイントまで7時間の標識を後にした。木々には分厚い苔が付き、シダが生い茂るうっそ

うとした山肌を左右に見て登山道は進み、いつになったらこの景色が変わり町場に近づいた実感が湧くのかな?と思いつつ歩く事になる。途中開けた場所もあり楽しい歩行だ。

道のり半ばボートシェッドで大休止。先行のガイドさんによる飲み物サービスを受け、おにぎりを食べた。海外山行にあって、結構イケる。ベルロック岩とはなるほどとうなずける。大洪水で岩が侵略され空洞が出来た大岩で、十数人が入った事があるとか。やはり日本人だったらしい。我々6人も挑戦してみたが、本当にそんなにも大勢が入れた?でも、驚くほどの大岩である。



雨林地帯を先に進むと滝や沢は遠目、近目多数見て来たが、この沢は大感激。曲がりくねる沢のすぐ横を歩き下る。

我思うに雨が降り続いたせいか水量、水音が凄い。

曲がりくねる木道階段の足元表面には金網が張られ滑る事はなく、これまでもそうであったが破れたり、錆びて腐った所はない。とにかく、安全に出来ている。

前後誰にも会わずに下った。この大自然に厳しい入山制限なので、この様な事は何回もあった。

午後1時頃、時間差で顔を合わせ川のほとりの陽だまりで昼食を取り6人揃って出発。最終地点サンドフライ・ポイントを目指す。この名前も忘れられない。

サンドフライに刺されそのまま触らなければよいが、一端かき始めると暫くかゆく、又かいてしまう。場所によってはかなり飛び交っていて大慌てする事があった。

このポイントに時間差で到着。6人

全員PM 3時発のボートに乗り対岸のマイターピーク・ロッジそばの船着場到着。

日本人ガイドのトシさんが今回のメンバーは歩きが速いと言っていた。昼食休憩含め約7時間30分の歩行だった。

ロッジ最後の豪華ディナーを済ませいよいよ完歩証明書をいただくミーティング。39人参加中日本人は我々6人と1組のご夫妻8人のみ。ひとりひとりパフォーマンスありの授受。言葉なんて分からなくても楽しい。負けじとオーバー目のパフォーマンスを試みた。部屋からはマイターピークが望め、バスタブがある素敵なホテル式ロッジでした。

54Kmを踏破出来まだまだ捨てたものではないわいな！！

(記・中村 友子)

日程#7+ 12月18日(水) 雨後晴れ  
ミルフォード・トラック 5日目

マイターピーク・ロッジ～ミルフォード・サウンド～クイーンズタウン

今日は折角のミルフォード・サウンドクルーズですが雨で残念です。

でも昨日の天気が最高に良かったので素晴らしい景色が見られ満足でした。

何時ものランチ作り、トランクを預ける作業、朝食を済ませ身軽でいざ2時間程のクルーズに出発！！

雨の中のサウンドはしっとりとして静かで滝、滝、滝の姿は水の量も多くて素晴らしかったです。アザラシの群れも見られました。

一番の感激は、二回船の先端が滝の



真下に入ったことです。デッキで近づいていく時から興奮してました。水しぶきと滝の船にぶ

つかった音に子供の様にハシャギ感激しました。今こうして思い出しても興奮してしまいます。

船からバスに乗り換え11時に出発。テアナウに向かう途中でルピナスの群生を見ることが出来ました。(ピンク、白、紫の素晴らしかったこと!) 又黄色の花(エニシダ)の一面と、羊の群れ、バスから見える景色は北海道並みの雄大さで飽きることがありませんでした。テアナウ着12時55分。昼食や買い物などして13時30分発。一路クインズタウンへ。

15時40分着。39人の仲間と別れを惜しんで早々にホテルへ(歩いて)今日の夕食は中国料理、窓から美しい景色の見える店でビールでまず乾杯、美味しい料理で大満足、九時近くでも若者が楽しく賑わっている町、ムード一杯の中を惜しんでホテルに戻りました。

アツという間のミルフォード・トラックの5日間でした。最高！！

(記・石附 智江)

第二行程 ケプラートラック (インディペンデントツアー)

日程#9 12月20日(金) 晴・曇り  
ケプラートラック1日目

テ・アナウ～ラクスマアハット

体調不良の関口さんと若村(貴)さんをホテルに残し、4名で出発。

トラックネットのマイクロバスを降り、湖畔沿いの道を辿る。

やがて湖畔を離れ、緩やかな登り。このコースはミルフォードの混雑緩和のために作られた比較的新しいコースとのことで、小型ブルで開削されたとの事。広くて歩きやすい。

樹林帯を登る。やがて大石灰岩の岩がそびえる。ライムストーン。過ぎてラン



チ場所を探す。昨日スーパーで買ったサンドイッチなどそれぞれのお弁当。



樹林帯を抜けると、稜線。強風が吹きつける。冷えない前に1枚羽織り、手袋、帽子でしっ

かり防寒。

ハットに着くと先着組がベットを確保して待っていてくれる。ありがとうございます。

一息ついて、鍾乳洞見学。草原の平坦な路を往復。

夕食は、ハットのダイニングルーム。水道完備、ガス台完備、テーブル完備。清潔で使いやすい。他のゲストと譲り合って使う。日本で購入のフリーズドライ食品中心で、アルファ米とふりかけ、みそ汁、カレーなど。お湯だけ沸かせばOK。

因みにトイレは清潔な水洗。ただし、シャワーはなし。

夜半、強風と豪雨、小屋の窓が震える。あした歩けるのか？

日程#10 12月21日(土) 雨、曇り  
ケプラートラック 2日目

ラクスモアハット～アイリスバーンハット

今日は稜線歩きなので眺望が楽しめるはず。

しかし、夜半は強風と豪雨。出発が危ぶまれた。

しばらく様子を見てみると数名出発、風も弱まった。雨具上下に手袋、帽子もしっかり着けて出発。

最高点のラクスモア山のそばに来てガス晴れず、頂上はパス。

稜線を辿ると雲が切れ、眼下の森と湖、遥かな山なみが見える。ラッキー。

ハンギングツリーシェルターで昼食。

後から着いたパリジャンの単独行の美女。気になるがフランス語はボンジュールのみでは後



が続かない。残念。「6月にパリで10日間過ごしました」には「あ、そう。パリは物価が高いから大変だったでしょ」で終わり。残念。外にはイタズラ好きのオウム・ケアが2羽。全然人を恐れない。

ここからは概ね下り道のみ。稜線を辿り、雲の切れ目の眺望を楽しみつつ、高度を下げる。木製階段が続くが、丁寧に足場木部には金網が貼ってあり滑りにくくしてある。

やがて樹林帯、ひたすら下る。嫌になった頃、道普請中のハット管理人が「小屋まであと5分だよ」の言葉に元気をもらい10分下るとアイリスハット。

今日も先着のメンバーに下段のベット確保の労をとっていただく(2段ベットの上は転落の危機あり)。感謝。

夜はダイニングホールで夕食作り。水道、ガス完備。

他のパーティーの夕食風景を観察。スパゲティをゆで、何やら煮込んだソースをかける、ぐちゃぐちゃのカレーのごときもの、ズッキーニを刻みいためたもの、ドライフーズのマウンテンキューイジーヌ(ブランド名)のビーフストロガノフやベジシチュー等々。いずれもあまりおいしそうではない。しかし、大きな肉厚のパプリカを料理している組あり。これはおいしそう。

驚いたことに、飲酒のパーティーは全くいない。食後はコーヒーやお茶を飲み、数字パズルや読書、なにやら執筆の人も。

若者グループの明るい笑い声がやや例外の静かな山小屋の夕べが過ぎる。

8時からはハット管理人のコースの

注意、小屋の使い方注意、天候、自然保護、動植物、この山の歴史などウィットに富んだガイドンス(多分)。ジョーク豊富で笑い声が上がる。遅れないように笑うが、全然面白くない。チンプンカンプンなので当たり前。約1時間の苦行だった。

日程 # 11 12月22日(日) 晴

ケプラートラック 3日目

アイリスバーンハット～レインボウ・リーチ

こぶし会のジンクスにたがわず、下山日は好天。

今日も長丁場、早めに出発。溪谷の樹林帯を緩やかに下る。ひたすら歩く。

一部崩落地点を大きく巻いてシダ密生地を歩く。標識を見失ったら即道迷い。

樹林帯を緩やかに下る。やがて大きな河、湖畔。ここで山での最後の昼食。

モツラウハットは湖畔の明るい斜面の中腹、夕日が美しいそうだ。ここに泊まると楽しそう。ここの管理人は女性。これも魅力。



ここからは約2時間とのこと。気を取り直しひたすら歩く。中つり橋を過ぎ、やがて大きな吊り橋。ホントに最後

の大きな橋。すぐに駐車場。長い山行がやっとゴールイン。

ありがとう、同行の皆さん。ありがとう、ニュージーランドの山々。ありがとう、ハットの管理人さん。ありがとう、日本のお留守のみなさん。

お陰様で無事下山です。エニシングサンキューベリマッチ！！

付録：寸描NZのトランピン

### 1.フルガイドツアー

基本的に至れり尽くせり。

ロッジは清潔で暖かい。ベットにはシーツ(ただし、持参のインナーシーツを併用)。洗い立てのタオルと温かいシャワー。

洗濯場と乾燥室完備。今日着たものは朝にはカラカラ。

食事は、夜はスープかアペタイザーから始まり、メインはビーフ・ラム・魚・ベジタブルなどから前日にチョイス。サラダ。デザートはアイスクリーム、パイ、シャーベットなど。味もボリュームも満足できる。コーヒー、紅茶はカウンターでセルフ。味噌汁もある。果物はリンゴとオレンジを自由にどうぞ。クッキーとキャンデー、ナッツ類もどうぞ。

ビールは6.5ドル(1ドル約95円)、グラスワイン10.5ドル、フルボトルは32ドル。簡単なオードブルがラウンジのテーブルに用意されている。

朝食は、シリアルやオートミール、、トマト、ピクルス、酢漬け赤カ卵料理、ハムやベーコン、ハッシュドブラウン(ポテト)、果物。

昼食は、朝、サンドイッチを自分で作る。ライ麦パンに各種のディップ

ブ、マヨエッグ、ハム、ソーセージ、チーズをタップリはさむ。オレンジ、リンゴ、エナジークッキー、ナッツも。

ガイドはゲスト39名に対し若い4名、うち1名は大和男児。アマンダ、アレックス、ケイティはいずれも親切で明るく美人、息子の嫁に欲しい。

コースでは三々五々歩き、ガイドが前後を追い抜いたり待っていたり。

ランチ場所では必ず温かい飲み物を用意して待っていてくれる。待機場所に辿り着くと優しく明るく「ウエルダン！！」と迎えてくれる。元気回復。

## 2. インディペンデントツアー

コースは道明瞭、道標も完備。けもの道や脇道は殆どないので道迷いの心配はない。危険な個所はきわめて少ない。木道も滑り止めの金網完備。蛇や害獣の危険なし。

途中、シェルターやトイレあり。比較的清潔（水洗ではないが）。水場は途中の溪流飲用可。

ハットは完全予約制。各トラックへはバス路線が四通八通に完備。時刻表も正確。いずれもネットで事前払込み。

ハット内は清潔な寝室とダイニングホール、水洗トイレ（トイレトペーパー完備）。水道は飲用可。炊事シンクやガス台も清潔。シュラフと食料、鍋、食器、ライターは持参必須。物販は一切ない。

ハット管理人のガイダンス聴講あり（寝たふりでパスする人も）。

## 3. サンドフライ

ヌカカ的一种で3mm位のハエの一種。ちくっと刺し、かゆみ激しい。高度の低い山中で寄ってくる。動くものや、服の上からは刺さない。防虫剤を塗るが、汗で流れ効かない。

因みに、私は左手の腕時計バンドの周辺を12カ所刺され、3カ所は今も痕が残る。歳のせい感覚鈍化？

## 4. 物の値段

物価は比較的高いと感じた。夕食はビールと安いワインを飲んで30ドル位。

最初のクィーンズタウンのレストランでは1人100ドル（ただし、ビールとワイン2本をしたためた）

の豪華版。この街で有名なキングサイズハンバーガーは11ドル～15ドル。でも1人1個は食べきれない大きさが。でも1人1個は食べきれない大きさが。

テ・アナウのまずいミートスパゲティが14ドルにびっくり。でも違う店の出来立てラムシチューパイは6ドルで熱くて美味しかった。隣の店の恰好いいサングラス5ドルもお買い得。

お土産のマヌカハニー（ヒラリーのエベレスト登頂を助けた蜂蜜）250gは9.5ドル、メリノウールのTシャツ120ドル。同パンツ90ドル。「私、脱ぐと高いんです。」

前述のマウンテンキュージーヌのフリーズドライシチューは2人前10～14ドル。

ホテルの朝食はビュッフェスタイルで35ドル。等々。

（記・若村 勝昭）

